

# 北上市で「日本おせっかい達人協会」を立ち上げた

かわ 川 しゅう 秀 司さん

負のイメージがあるおせつかいを相手への思いやりと捉え、個性を尊重する「おせっかい」の普及を目指す。「身内以外に非寛容な日本の生きにくさを取り除きたい」との思いが原動力だ。北上市出身。高校まで「自己主張できないおとなしい子」だったが、福島大進学を機に自分を変えようと一念発起。ソフトボール部で心身を鍛えた。卒業後にはUターン。

父が立ち上げたガラス店を継ぎ、38歳の時にリフォーム業に転業した。

## ひと

顧客に歩み寄るリフォームを追求し「超おせっかい」を会社のスローガンに掲げる。顧客の家族会議に加わり、一緒に最適な家づくりを探る「おせっかい」を実践。現場で作業する業者とも勉強会で気配りの大切さを共有し、連携を強める。「相手を思いやるひと手間がいい仕事につながる」とうなづく。

取り組みの輪を広げるため、2月に協会を立ち上げた。個性を認め合えない日本の現状を憂い「もっと若者が生きやすい社会にしたい」と力を込める。

ソフトボールは投手、指導者として約30年情熱を注いだ。「変化球と同様、人生も自分の意思で変えられる」と説く。息子3人は独立し、妻利佳子さんと同市和賀町で2人暮らし。58歳。

